

- ① 新生児蘇生法
- ② BLS講習会
院内アンケート結果
- ③ 救急領域のシミュレーション
平成24年度利用者数
- ④ 交通案内
利用方法 など

愛知県地域医療再生計画により設立された、名古屋市立大学病院臨床シミュレーションセンターは、新生児医療、周産期医療、救急医療の3領域の研修を通じて地域の医療安全の確保とチーム医療の向上を目指します。



加藤 文典
(新生児医学)

臨床シミュレーションセンター新生児部門は、日本周産期・新生児学会の新生児蘇生法普及事業における東海地区唯一のトレーニングサイトに指定されており、新生児に関わる基本的な知識、技術から、より専門的な医療行為、教育技術までを習得できる環境を提供しています。

センター内には、実際に新生児集中治療室(NICU)で使用している保育器、人工呼吸器、吸引装置などの機器を備えており、新生児への接し方から医療機器の取り扱い方法、様々な処置など、日々の臨床現場さながらのシミュレーショントレーニングを行うことができます。また、新生児の呼吸・循環の症状を忠実に再現できる新生児シミュレータを用いて、気管内挿管などの高度な技術を含む、実践的な医療行為の体験から、現場でのチームワーク、コミュニケーションスキルの習得まで、臨床に即した様々なトレーニングが可能です。さらに、医学生や研修医への教育の一環として、気管内挿管、胸骨圧迫などの学習も行っています。

「胎児」から「新生児」への大きな環境変化に際し、約10%の新生児が適応できず、何らかの補助が必要であるとされています。新生児蘇生法普及事業では、全ての分娩において標準的な新生児救急蘇生法に習熟したスタッフが立ち会うことを可能にし、予後を改善するということを目的としています。

当センターでは、新生児蘇生法(NCPR)講習会として定期的に「一次」コース、「専門」コースを開催し、学内のみならず、市内、県外からも多くの方々に参加していただいております。さらに、東海地区トレーニングサイトとして「専門」コースインストラクター養成講習会の開催を予定しています。また、既に講習会を受講し修了認定を受けた方々を対象に、さらなる知識や技能の「補完」および「向上」を目的とし、認定者同士が積極的に参加して相互学習を行うフォローアップコースの開催も予定しております。これら講習会の開催は、当シミュレーションセンターや新生児蘇生法普及事業のホームページ上で告知していく予定です。数多くの方々の参加をお待ちしております。

桜山・院内BLS講習会開催中です！

「突然目の前で人が倒れたら、どうしたらよいですか？」

単純な状況設定ですが、臨床シミュレーション教育のエッセンスが詰まっています。



飯塚 成志
(医学・医療教育学)

現場ではどうしたらいいだろうとじっくり考えている時間はありません。安全を確認して傷病者に接触。意識がなければ救急車とAEDを依頼。呼吸がなければ胸骨圧迫。救命の現場にあつては、考えるよりも先に素早く身体が反応することが重要です。自転車に乗る時に、手順を考えることがないのと同じです。

BLS(一次救命処置)講習は、こうした事態に対処できることが目的です。手順は単純で手技も難しいものではなく、短時間で習得できます。が、頭でわかっているにもかかわらず実際にはなかなかできません。知識と技術を確実なものにするには定期的な実習受講が欠かせません。

従来、BLS講習の場所と機材の確保、指導者など、継続的な運営には大変な労力が伴いました。当センターの開設は、講習会開催の効率を飛躍的に向上させています。多目的室が空いていれば、部屋を解錠してわずか2、3分で、100名単位の講習会の準備が完了します。準備が不要であれば指導するインストラクターも講習会開始時に集まればよく、助力を得やすくなります。慢性的な指導者不足も解消しつつあり、現在当センターでのBLS講習会には実に年間のべ1000名を超える受講生・インストラクターに参加して頂いています。院内講習の体制も整備し、市大病院のスタッフ全員が1～2年おきに受講できる見込みとなりました。学生教育の場としても利用されており、医学部・看護学部・薬学部薬学科の学生全員が、入学後間もない時期にBLSを受講しています。

一般市民にとって突然の意識消失や心肺停止は「不慮の事態」ですが、医療従事者や病院のスタッフにとって「不慮」であってはなりません。「起こりうること」と認識し、現場ですぐに対応できる心構え、知識、技術が必要です。今後当センターではBLSをはじめとする様々な救急関係の講習会を拡充していきたいと考えております。積極的な受講とともに、知識と手技の修得後には指導・運営の側にも積極的な参加をお願いしたいと思います。



院内BLS講習会アンケート結果 第1回～第15回

質問内容

1. 講習会の内容は?	適当	99.5%	難しすぎる	0.5%	易しすぎる	0%
2. 講習時間は?	適切	98.5%	長過ぎる	1.5%	短過ぎる	0%
3. 講習会開始時刻は?	勤務時間内希望	90.5%	勤務時間外希望	8%	どちらでも	1.5%

救急領域のシミュレーション講習会について

私は当センター開設以来、笹野センター長、飯塚副センター長とともに救急領域のシミュレーション講習会を担当させていただいております。

私とシミュレーション教育との出会いは、平成15年10月に名古屋市立大学病院において初めて開催された第1回桜山ICLS（成人の一次及び二次救命処置）講習会の受講によってでした。心電図モニターを装着すると各種の波形を出すことができる「ハイテク」な人形を用いて、実際の現場と同じように、胸骨圧迫、人工呼吸、そして本物の除細動器で除細動までを行い、また、5~6人のチームの中でお互いに声を掛け合って蘇生訓練を行う教育方法に大きな衝撃を受けました。同時に、その教育手法にすっかり魅せられ、今日までシミュレーション教育に携わって参りました。

名古屋市立大学病院では、当センター開設以前から、BLS（一次救命処置）やICLS関係の講習会を開催しておりましたが、当センター開設によって、新たにPALS（乳児及び小児の一次、二次救命処置）講習会が実現いたしました。BLSやICLS講習会では、主に成人の心肺停止患者の対応を学びます。一方、PALS講習会では、子どもはいったん心停止になってしまうと予後が非常に悪いため、心停止にさせないように気道、呼吸、循環の評価方法に重点が置かれていることが特徴です。PALS講習会では、病院内外で発症した乳児および小児の呼吸、循環器系に関わる緊急病態や心停止の評価と管理を学ぶとともに、小児科医につなぐまでの救命、治療スキルの向上を目的として、2日間行われます。実際の救急外来では、乳児、小児の重症患児を診察する機会は意外にもあまりないため、現場で訓練することはほとんど不可能です。だからこそ、このシミュレーションで訓練することが重要となります。

当センターでは、今後も、PALS、BLS、ICLSという3つの講習会を継続して行って参ります。院内外を問わず、また、職種に関係なく、幅広い??皆様の受講をお待ちしております。



増田 和彦
(救急医学)



平成 24 年度センター利用者数

(単位:名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
全 体	956	1,182	1,460	1,022	793	837	724	6,974
学外利用者数	93	348	331	430	190	329	214	1,935
利用件数	43	51	55	41	36	40	46	312

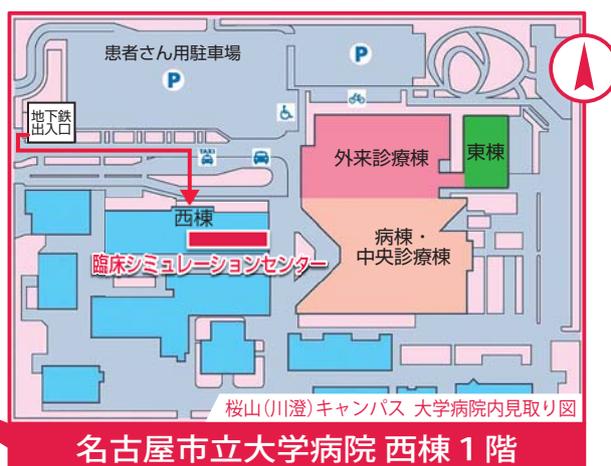
編集後記

当センター開設後、約1年半が経過し、当初予定した新生児医療、周産期医療、救急医療の3領域全部のシミュレーション講習会を定期的に行うことができるようになりました。いずれの講習会も、地域の医療安全の確保とチーム医療の向上に寄与するだけの質を持ったものと自負しています。予想以上に多くの方々にご利用頂いているのは、運営にご理解頂いている多くの関係する皆様のご配慮の賜物と感謝しています。今後は、現在開催している講習会が更に充実したものになるように努力するとともに、新たな分野の講習会も計画しています。

当センターの開設は2011年3月であり、東日本大震災が起こった時期に重なります。今後30年以内に88%の確率で発生する東海地震などの災害に備えたシミュレーション訓練も重要だと考えています。当センターが地域の医療に貢献できるようにスタッフ一同チャレンジしていきたいと願っています。引き続き、皆様のご指導ご鞭撻を頂くことをお願い申し上げます。
(センター長 笹野 寛)



交通案内



[交通機関]

地下鉄 桜通線「桜山」駅下車 3番出口
市バス 金山7番のりばより金山12「市立大学病院」下車
金山8番のりばより金山14「市立大学病院」下車
(一般用駐車場がありませんので、公共交通機関でお越し下さい)

利用方法

- ホームページ(URL <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/simncu/index.html>)より**利用申請書・不動産一時貸付申請書**をダウンロードしてFAX、郵送または受付まで持参していただきますと、センターで利用許可証を発行します。
- 使用予定日の6ヶ月前の月の最初の平日よりお申し込みいただけます。
- 特にセンターの設立目的に合った利用のみは6か月以上先の予約でも受け付けます。従って、第1受付日でも既にお申し込みいただけない日ができる場合がございます。ご注意ください。最新の施設空き状況は、お電話にてお問い合わせください。
- 使用目的、使用計画などをお知らせいただきセンター設立目的に合わないものは利用をお断りすることがございます。詳しくは、センターホームページをご覧ください。か、**センター事務室までお問い合わせください。**

受付時間

月一金

9時から17時(祝日除く)

vol.3
(2012.12.01)

発行：名古屋市立大学病院臨床シミュレーションセンター

電話 052-853-8429 FAX 052-853-8436

E-mail simncu@med.nagoya-cu.ac.jp URL <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/simncu/index.html>